

第40回公演「久美・美容室物語」 団長の独り言

10月31日(日)「明るい稽古場」

稽古場の雰囲気が高にいい。

なんととっても稽古が始まったばかりのこの時期なのに、毎回欠席者がほぼゼロなんです。当たり前前事なだけで、昔の劇団ふあんハウスでは、「当たり前」が出来ていなかった。

理由その1。

稽古が始まって、キャストがなかなか決まらなかった。

これって劇団ふあんハウスの稽古スタイルにも関係するのだが、毎週土日の夜だけの稽古を、約4か月も行うというスケジュールに合わせられる「適任者」がなかなかいなかったのが理由。(本番1か月前は昼夜)

いわゆる「普通」の芝居の稽古って、ほぼ毎日稽古を行い、1か月か、長くても2か月程度で仕上げて本番に挑むというのが一般的。(ちなみにプロの役者時代に出演した商業演劇は、稽古期間が2週間だった。)

芝居の稽古で4か月も拘束されるのはちよつと・・・という人が圧倒的に多く、「適任者」見つかるまでは「代役」での稽古が続く日々だった。

理由その2。

その1に通ずるんだけど、出演する適任者が、どうしても決まらないから、「毎回、稽古に参加しなくても大丈夫です(本当は大丈夫じゃないけど・・・)」、「お忙しい中、出演していただけるだけで感謝!」というようなこちらが低姿勢スタイルで出演していただく方が何名もいたので、そういう条件なものだから、当然ながら稽古場になかなか来て貰えず、結局、ずーっと代役を立てての稽古となっていた。(その役者が本腰を入れての合流するのは、本番の1週間前って事もあった。)

理由その3。

その1、その2でもまだ出演者が決まらない事もあり、そうすると「とにかく出演者を確保しなきゃいけない」という焦りから、劇団ふあんハウスとは縁もゆかりもない「まったく繋がりがない知らない役者さん」を、インターネット等を駆使して探し出し、雰囲気のみで、どんな芝居をするのか全く分からないのに、「突然ですみません攻撃」でアポイントをとって口説き、出演にまでこぎつけるなんて事もあった。

ただ・・・そもそもが誰の紹介でもなく、オーディションも行わず、お互いがお互いの事をまるで知らない状態でスタートしたのだから、当然

ながら摩擦が生じる事も多々あり、それでもそこを乗り越えて、結果として、「次回もよろしくお願いします」となる方もいたけれど、なかには稽古を行えば行くほど、どんどん摩擦が大きくなり、結局は稽古途中で降板されてしまい、またしてもキャストのいない状態で稽古を続け、本番ギリギリのところまで、「救世主」的な方を見つかり、なんとか本番までこぎつけた!なんて事もあった。

まあーそういった事情から、稽古開始から2か月くらいまでは、複数のキャストが決まらないまま、ずーっと稽古をしてきた経験のある劇団ふあんハウスなのですが、それがそれがここ最近では、稽古が始まる前に、すべてのキャストイングも終える事が出来ているし、しかも意識の高い出演者達が集まってくれているので、昔のように「出演者の半分が代役」という訳の分からない稽古風景は、皆無となっている。

そういう事あったねえ・・・出演者の半分が稽古に出来ない日もちよくちよくあって・・・稽古場に到着するとガラーンとしていて。

泣きたくなるほどショックで、「これじゃー稽古にならないから今日の稽古は中止しましょう。」って言いたくなる時もあったけれど、それでもちゃんと来て、くれているメンバーも

いるのだし、そこは私が「はあー」なんて空気を出しちゃいけないって思い、人数が少なくとも明るくテンション高く!「少人数だからこそ出来る稽古」ってのに気持ち切り替え、モチベーションを保ってきた。

それがどうだろう!現在のふあんハウスでは、稽古場はいつも賑やか!そりゃーたまには用事があるからお休みするメンバーもいるけれど、昔のように「稽古にほとんど参加できなくてもいいので・・・」なんて、今にして思えばありえない条件でのキャストイングはしない事になったので、「ずーっと代役ばかりで、稽古にならない」なんてストレスもなく、稽古そのものが最高に楽しい。

長い間活動を行う中で、様々な辛い想いを何度もしてきて、それでも「障害があるうがなかるうが、本物の芝居を創る!」というポリシーを激しく貫くがあまり、そんな私の考え方を理解して貰えず、結果としてスタッフさん、メンバーさんから恨みを買って、悲しい別れを随分と経験してきた。

何度も「辞めよう」って思ったけれど、多くの関係者の皆様や、メンバーやお客様に支えられて、「夢」「希望」「勇氣」を今回もお届けする。いいお芝居になる予感がします。ぜひ!ご期待くださいね。